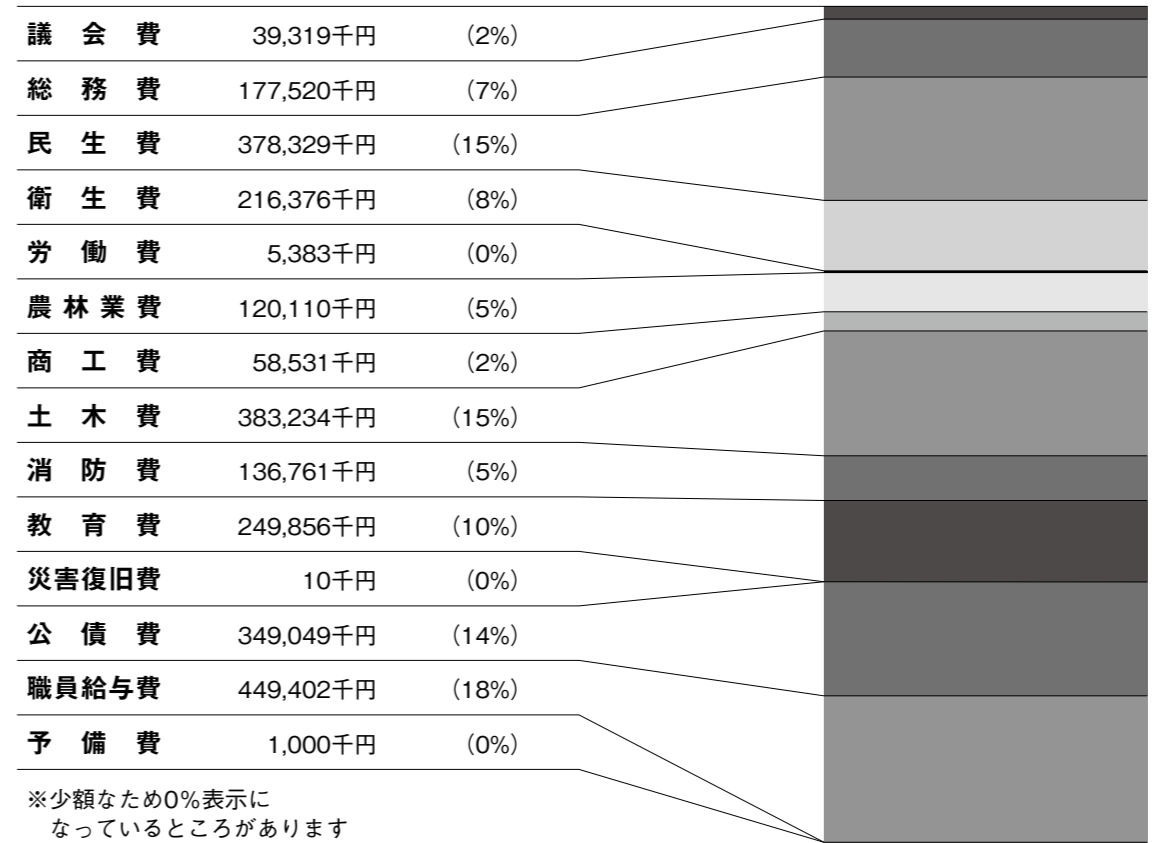


一般会計歳出（目的別グラフ）



る議会で説明・審議を行います。議会で認められた段階で、ようやく「予算案」が正式な「予算」となります。

予算編成の際には、最初に人件費や借金を返済するための公債費といった必ず払わなければならない金額（義務的経費）を固めます。次に、緊急性や重要性を総合的に見極め、地域を



性化させるために使うお金（投資的経費）を決めます。3ページで示した歳出の性質別グラフでは、義務的経費（38.4%）や投資的経費（16.0%）などの割合を知ることができます。

縮小傾向から新たな局面を迎えています。このことから、本年度の予算は、喜茂別町が築き上げてきたまちづくりへの旺盛なチャレンジ精神を引き継いだ「新たなまちづくり推進型予算」だと言えます。

町の予算を目的別に示したグラフからは、行政サービスの水準や特色を知ることができます。その割合から見ると、民生費と土木費とで30%を占めているのが分かりますが、民生費は住民の生活を守る経費が主で、土木費は新しい公営住宅建設や既存の道路や施設を快適に利用できるよう、取り組まれる経費となっています。

新たなまちづくり推進型予算



平成24年度から新たな第5次総合計画がスタートしています。また、事業所の新設など、喜茂別町のまちづくりはこれまでの

未来託す 正念場



今回、予算から町政の姿を見つめてみましたが、これらは、この町に住む皆さん一人ひとりにかかわるものばかりです。予算書から、社会の現状や課題、ライフスタイルに応じた新たな施策が求められていることも見えてきました。町の未来は、ここ5年で、

どのようなまちづくりが実施されるか、将来の発展へとつなげることができると懸かっています。最少の経費で最大の効果を生み出す創意工夫が求められます。今後、事業の選択と集中を行い、計画的な経費削減を図りながら、



より効率的で効果的な行財政運営を着実に進めます。

町政は住民生活に密着し、町財政は、そのまま住民生活に跳ね返ってきます。決して他人事ではありません。まずは、わたしたち一人ひとりが施策や財政の現状を知って分析し、将来にもたらされる効果と自分たちに跳ね返ってくる負担を、全町的な視点で意識する感覚が必要になります。この町の将来像を描きながら、何を削り、何を残し、何を創るのか：町政と予算に向けた意識は、これから町が進むべき方向性を左右します。

- ▼物件費：賃金、旅費、交際費、需用費など消費的性質をもつ経費です。
- ▼維持補修費：道路や公共施設などを管理するために必要な経費です。
- ▼扶助費：社会保障制度の一環として、高齢者、児童、心身障害者などを行う支援のための経費です。
- ▼補助費等：町から他の団体などに対して行政上の目的で支払う経費です。報償費（講師謝金等）、役員費（保険料等）、負担金・補助金及び交付金（助成金等）などが該当します。
- ▼普通建設事業費：道路や公共施設の新増設に必要とされる経費です。
- ▼災害復旧事業費：災害で被災したものを復旧するための経費です。
- ▼公債費：町の借金などを償還するための経費です。
- ▼積立金：財政運営を計画的にするため、財源変動に備えて積立てる経費です。
- ▼繰出金：一般会計、特別会計、基金との間で、相互に資金運用をするための経費です。

【目的別歳出】

- 地方公共団体が行う事業を目的別に分類するもので、行政サービスの水準や行政上の特色などを知ることができます。
- ▼議会費：議会運営の経費です。
- ▼総務費：一般的な行政管理事務に

- 要する経費（庁舎管理、選挙、情報化、広報など）です。
- ▼民生費：障害者、高齢者に対する福祉や子育て支援などの経費です。
- ▼衛生費：環境保全、疾病予防、健康づくりなどの経費です。
- ▼労働費：労働者のための各種融資制度に関する経費です。
- ▼農林業費：農林業振興ための支援や生産基盤整備等の経費です。
- ▼商工費：商工業や中山峠観光施設等に関する経費です。
- ▼土木費：道路、河川や住宅などの整備や維持管理のための経費です。
- ▼消防費：羊蹄山ろく消防組合に対する負担金です。
- ▼教育費：教育や生涯学習の充実、文化・スポーツ振興などの経費です。
- ▼災害復旧費：公共土木災害、農林土木災害などの事業に要する経費です。
- ▼公債費：事業を行うために借りたお金（町債）の元金・利子や一時借入金の利子を支払う経費です。
- ▼職員給与費：特別職（町長、副町長、教育長、一般職員の給与、手当）に該当する経費です。
- ▼予備費：予算編成で予期しなかった支出に対応するための科目です。